

## Indicators Update

2012年5月16日 全7頁

# 3月機械受注～反動減となるも、概ね堅調な推移

経済調査部

エコノミスト 増川 智咲

民需は堅調な推移で、基調に変化は無いが、外需は弱含みの兆候

### [要約]

- **【概況】民需は反動減となるが、基調に変化は無い**：国内の機械設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、1、2月からの反動で前月比▲2.8%と落ち込んだものの、市場コンセンサスを上回る結果となった。3ヶ月移動平均でも前月比+0.2%と3ヶ月連続のプラスとなっており、総じて堅調な推移と言える。
- **【受注の主要内訳】外需に弱含みの兆候**：需要者別では、製造業が前月比▲8.4%、非製造業（船舶・電力を除く）は同▲3.9%と前月からの反動で落ち込んだ。外需に関しては、2ヶ月連続で大きく落ち込んだ。3ヶ月移動平均でも前月比▲4.8%と4ヶ月ぶりのマイナスとなったことに鑑みると、外需が弱含んでいる可能性がある。タイの大洪水からの復興を背景に、これまで大きく伸びてきた ASEAN 向け一般機械輸出が減少する可能性が高まっているほか、欧州ソブリンリスク懸念が重石となっていると考えられる。
- **【今後の見通し】設備投資は緩やかな回復基調となろう**：欧州を中心とする海外経済の減速が、企業の設備投資に対する姿勢に与える影響には注視が必要となるが、基調として、設備投資は復興需要に下支えされる形で、緩慢ながらも回復に向かうと考えられる。実際、民需（船舶・電力を除く）の2012年4-6月期の見通しは前期比で+2.5%と増加が見込まれている。

## 【概況】 民需：反動減となるが、基調に変化は無い

民需：3ヶ月移動平均では、3ヶ月連続のプラスと堅調

3月の機械受注は、季節調整替えて変動幅が修正されたが、基調に大きな変化は無いと言えるだろう。国内の機械設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、1、2月からの反動で前月比▲2.8%と落ち込んだものの、市場コンセンサス（同▲3.5%）を上回る結果となった。3ヶ月移動平均でも前月比+0.2%と3ヶ月連続のプラスとなっており、総じて堅調な推移と言える。

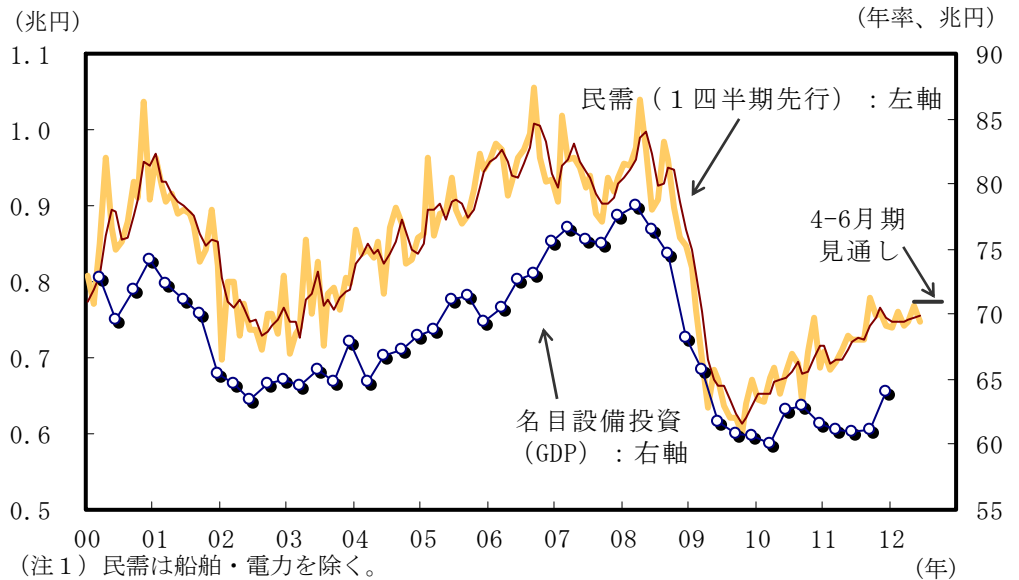
図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2011年												2012年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
民需（船電を除く）	▲0.2	0.1	7.7	▲2.8	0.5	▲2.3	▲0.6	3.1	▲2.5	0.7	2.8	▲2.8			
コンセンサス															
DIR予想															
製造業	▲1.2	0.2	4.1	▲3.0	4.6	▲7.8	2.8	2.9	▲4.0	▲1.3	9.5	▲8.4			
非製造業（船電を除く）	1.7	▲2.6	10.2	▲1.1	▲4.1	5.6	▲4.8	5.4	▲4.0	1.4	2.1	▲3.9			
外需	▲0.6	▲3.7	▲4.6	▲6.8	22.2	▲16.0	1.6	14.1	4.1	14.6	▲13.4	▲14.4			

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府、Bloombergより大和総研作成

図表2：機械受注とGDPベースの名目設備投資



（注1）民需は船舶・電力を除く。

（注2）民需の太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

## 【受注の主要内訳】 外需に弱含みの兆候

製造業・非製造業ともに反動で落ち込む

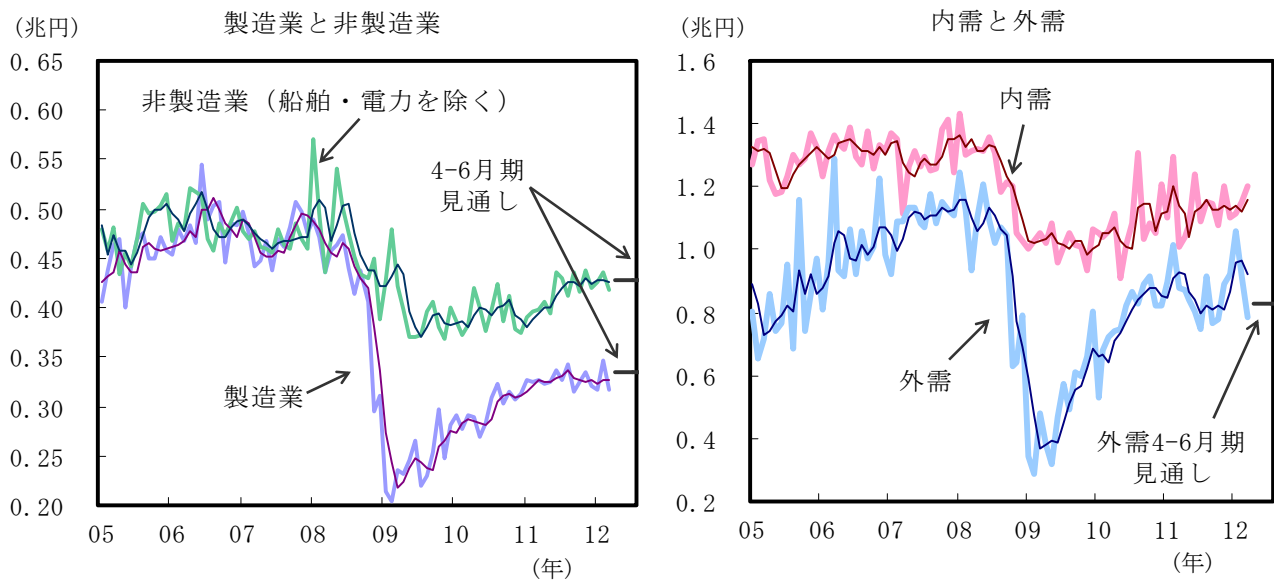
需要者別では、製造業が前月比▲8.4%、非製造業（船舶・電力を除く）は同▲

3.9%と前月からの反動で落ち込んだ。製造業は、15業種中7業種（前月の8業種から減少）が前月比でプラス、非製造業は12業種中6業種（前月の4業種から増加）がプラスとなった。製造業では、エコカー補助金の影響で「自動車・同付属品」が前月比+2.7%と堅調であった。

#### 外需は弱含み

外需に関しては、大型案件からの反動減で落ち込んだ前月に続き、前月比▲14.4%と2ヶ月連続で大きく落ち込んだ。3ヶ月移動平均でも前月比▲4.8%と4ヶ月ぶりのマイナスとなったことに鑑みると、外需が弱含んでいる可能性がある。実際、外需の4-6月期見通しも前期比▲9.7%と弱い。タイの大洪水からの復興を背景に、これまで大きく伸びてきた ASEAN 向け一般機械輸出が減少する可能性が高まっているほか、欧州ソブリンリスク懸念が重石となっていると考えられる。

図表3：需要者別機械受注（季節調整値）



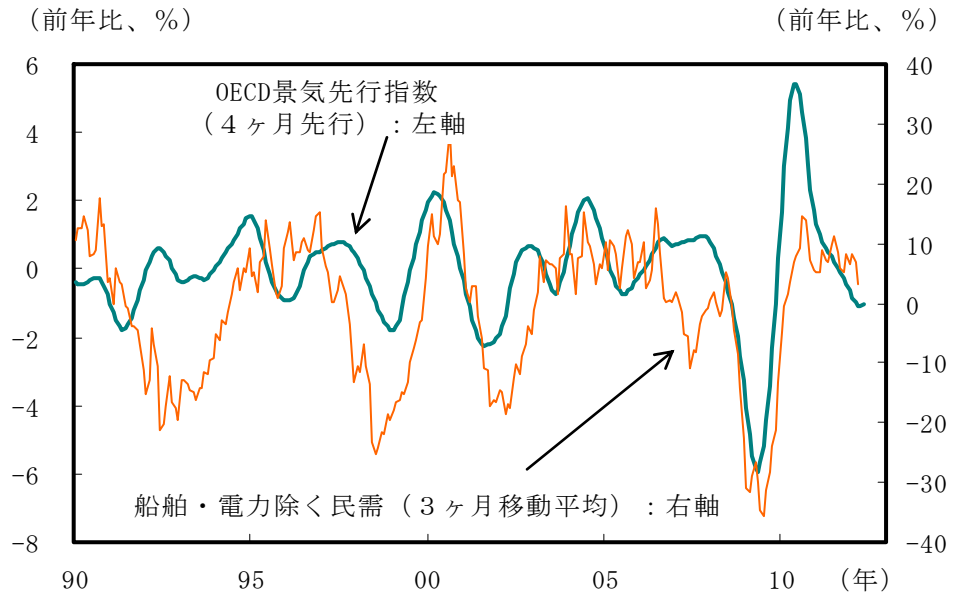
(注) 太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

### 【今後の見通し】設備投資は、緩やかな回復基調となろう

民需：4-6月期は+2.5%の上昇を見込む

前期比で見ると、1-3月期の民需（船舶・電力を除く）は前期比+0.9%と2四半期ぶりにプラスとなった。タイの洪水の代替生産が進んだほか、エコカー補助金の復活や好調な米国向け自動車輸出に下支えされたことが背景にある。欧州を中心とする海外経済の減速が、企業の設備投資に対する姿勢に与える影響には注視が必要となるが、基調として、設備投資は復興需要に下支えされる形で、緩慢ながらも回復に向かうと考えられる。実際、民需（船舶・電力を除く）の2012年4-6月期の見通しは前期比で+2.5%と増加が見込まれている。均してみると、毎月+1.8%（前月比）以上の伸びとなれば、2012年4-6月期の民需（船舶・電力を除く）見通しに到達する。

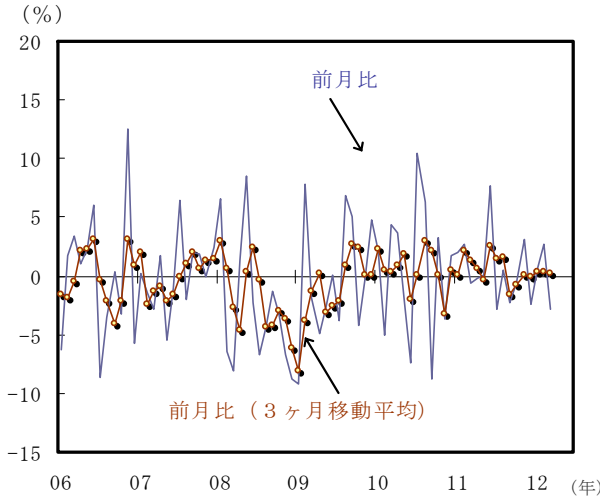
**図表 4 : 世界景気と機械受注**



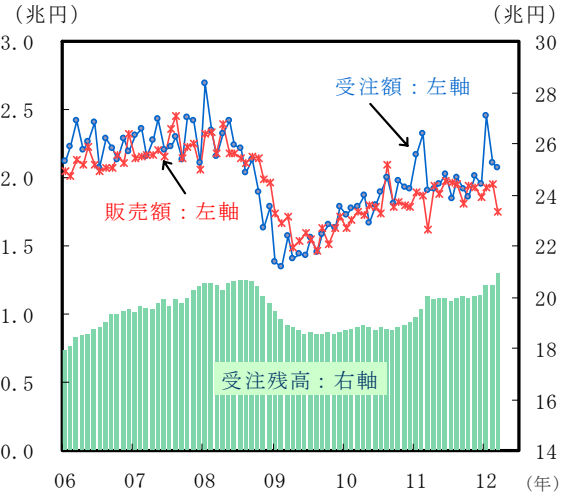
(出所) OECD、内閣府統計より大和総研作成

概況

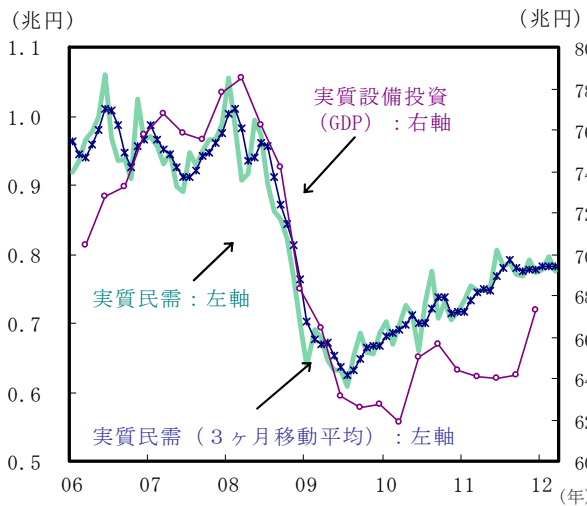
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



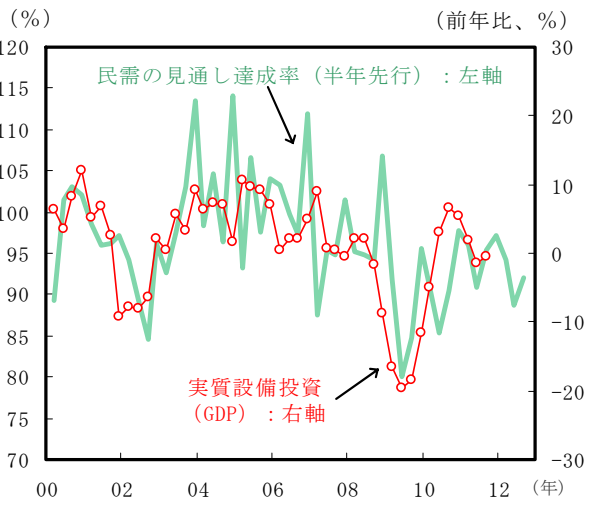
船舶を除く合計（季節調整値）



実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）

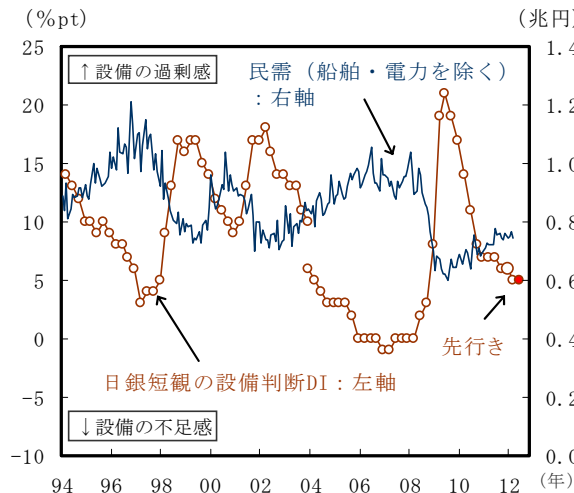


民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資

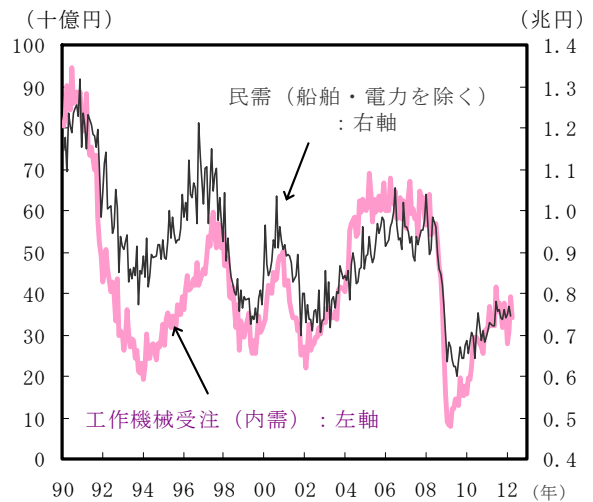


(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機械受注（季節調整値）と設備投資判断DI



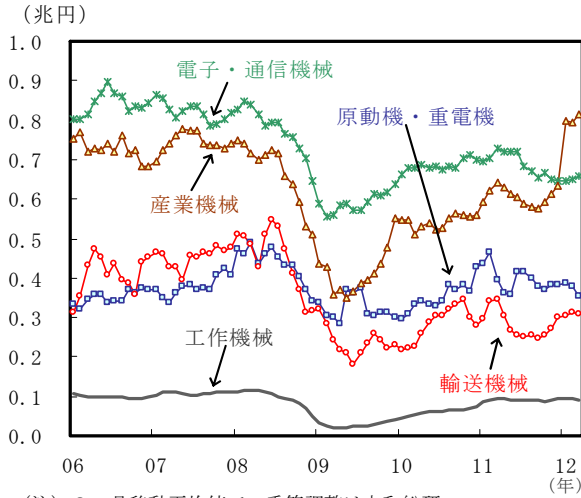
機械受注と工作機械受注



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。  
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

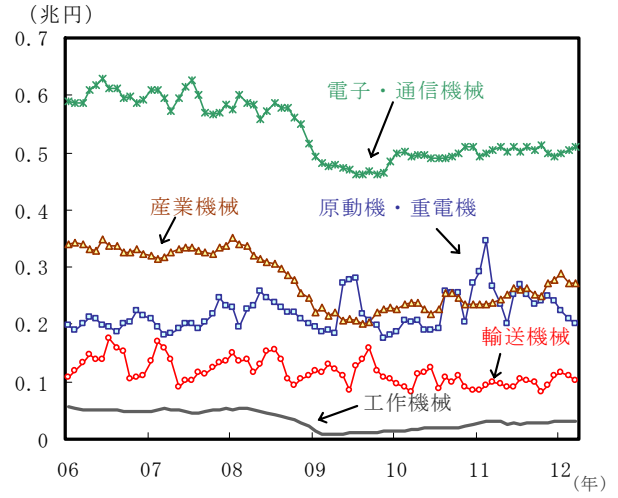
**機種別と製造業・非製造業の動向**

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

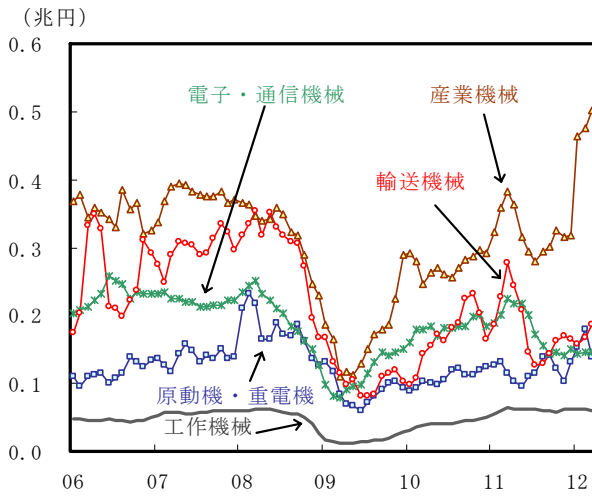


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

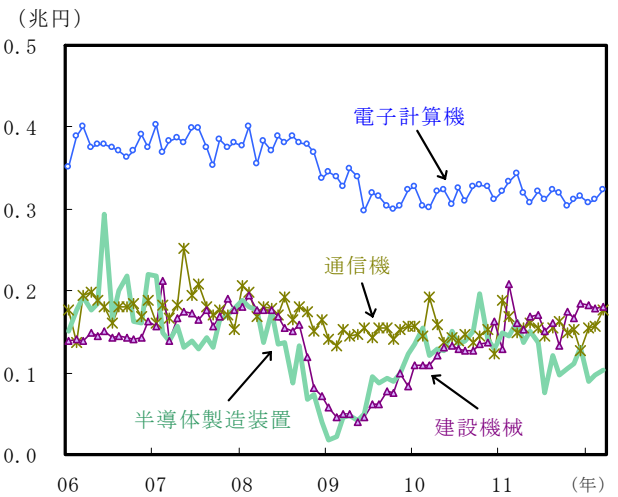


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

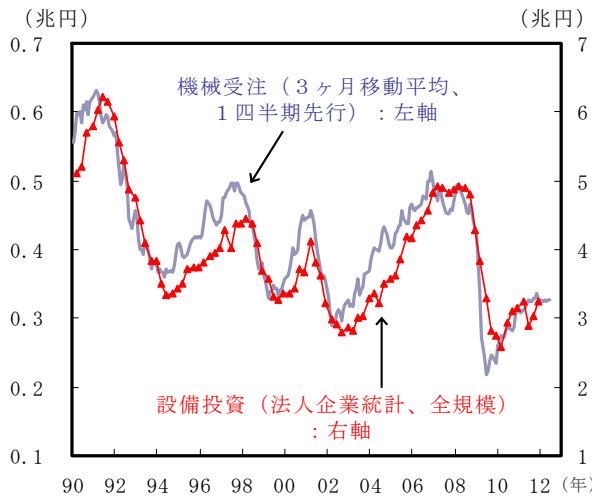


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）

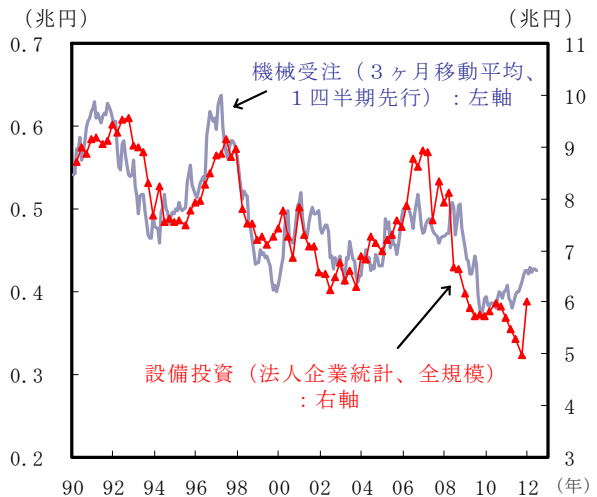


機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



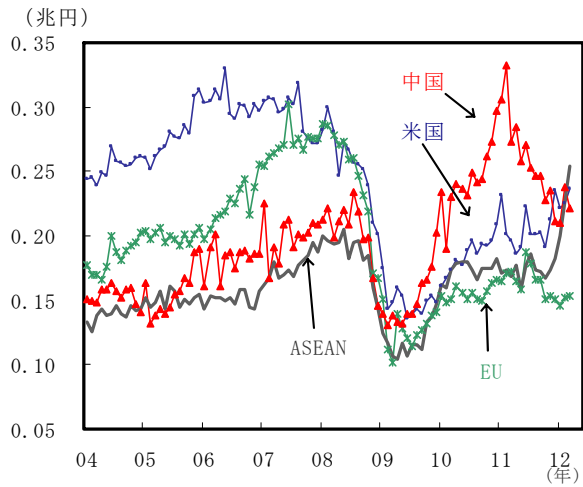
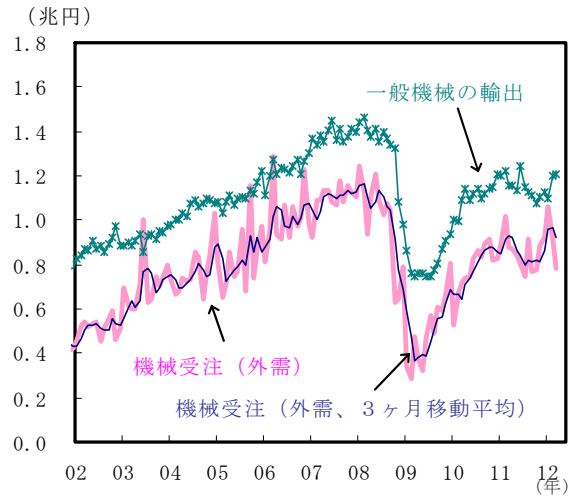
(注) 設備投資の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）



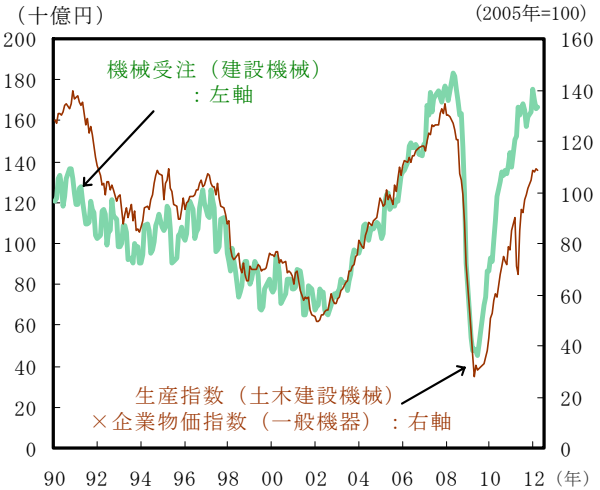
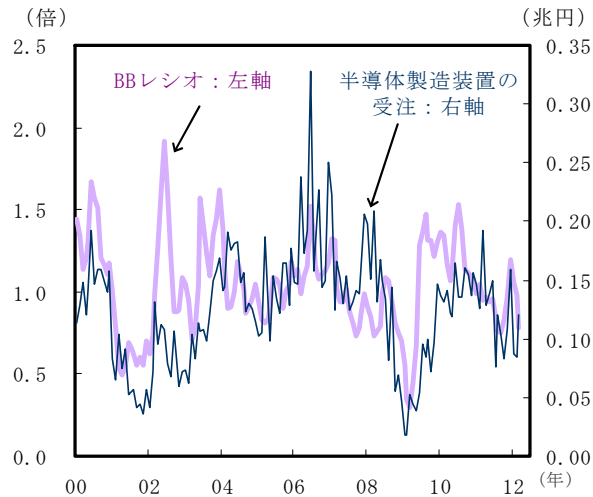
その他

一般機械の輸出と機械受注の外需 (季節調整値)      一般機械の輸出先 (主要国・地域、季節調整値)



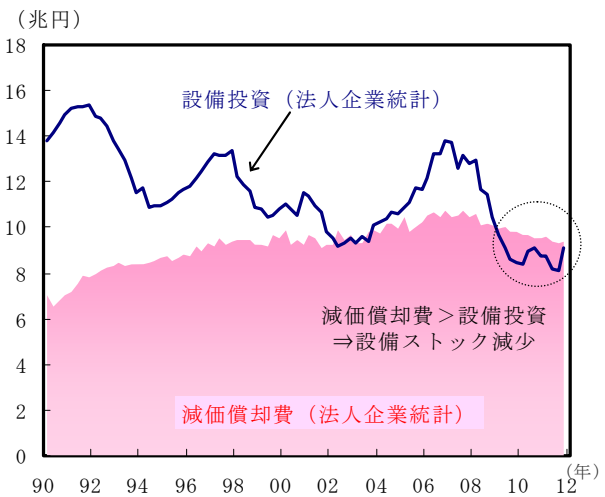
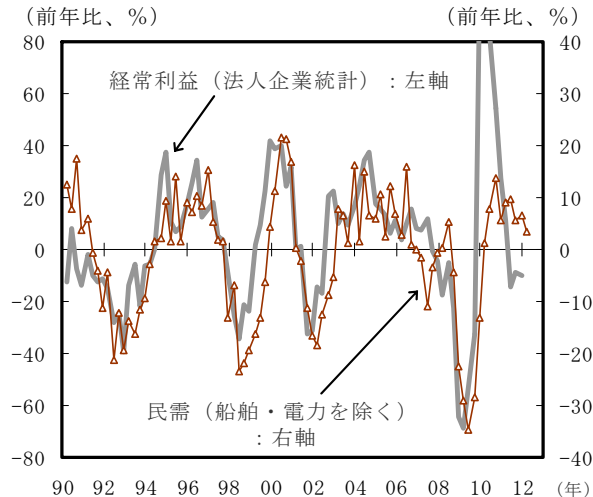
(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省、日本銀行統計より大和総研作成

半導体製造装置の受注とBBレシオ      機械受注と生産 (建設機械)



(注) 設備投資の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、日本半導体製造装置協会、経済産業省統計、日本銀行統計より大和総研作成

企業収益と機械受注 (前年比)      設備投資と減価償却費 (季節調整値)



(注) 法人企業統計は、全規模・全産業 (金融・保険業を除く) ベース。減価償却費の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成